

環境安全委員会 委員長 あいさつ



日本製薬工業協会
環境安全委員会 委員長

田坂 昭弘

私たち、日本製薬工業協会(製薬協)の会員企業は、優れた医薬品を開発・供給することにより、世界の人々の健康と福祉に貢献することを使命としています。一方、製薬協は、「製薬協企業行動憲章」において、「環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の活動と存続に必須の要件として主体的に行動する」と宣言しています。環境への取り組みは、製薬企業の経営においても重要度を増しており、企業として持続可能性を高め、成長していくためには欠くことのできない条件となっています。

製薬協では、1996年の「環境委員会」の設置を端緒として、地球環境問題に対する体系的かつ継続的な取り組みを行ってきました。現在、環境安全委員会では、「環境部会」「安全衛生部会」「地球温暖化対策部会」の3つの専門部会を中心に、アンケート等による会員企業の状況把握や、技術研修会による情報収集や啓発活動を進めています。また、それぞれの部会に「プロセス安全研究会」「営業車両事故防止研究会」「京都議定書総合対応策研究会」を設けて、参加企業が直面する課題にも取り組んでいます。さらに、環境安全講演会や環境安全セミナーでは、より広い視野・視点から外部講師による講演を企画して会員企業の環境経営のレベルアップを図っています。これら活動の内容は、「成果集」や「かんきょうニュース」などで会員企業に、また、ニューズレターなどを通してステークホルダーに発信していますが、すべての活動は委員会に参加している委員、専門委員のボランティア的活動に支えられています。

製薬協は、地球温暖化対策として、京都議定書第一約束期間(2008~2012年度)の平均のCO₂排出量を1990年度レベル以下にするという現行の目標に加え、上部団体である日本製薬団体連合会(日薬連)とともに経団連の「低炭素社会実行計画」に参加し、2020年度のCO₂排出量の目標を策定しました。東日本大震災や原発事故を受けた国のエネルギー政策の転換により、目標の見直しの必要が出てくることも考えられますが、製薬業界として進めてきたエネルギーの高効率の利用や省エネルギー施策は、エネルギーマネジメントの面からも、これまで以上に重要な経営課題になると考えます。また、今年度、製薬協は、日薬連とともに「循環型社会形成」に向けた産業廃棄物最終処分量の2015年度目標を決定しました。私たちは産業界の一員として、これからも省エネルギー・地球温暖化対策や廃棄物対策に継続的に取り組みます。

私たちは、生物多様性保全への取り組み、医療系一般廃棄物の適正処理や医薬品の環境影響なども、製薬業界としての対応が求められている環境課題であると認識しています。これらは業界全体で取り組む課題であるとともに、ステークホルダーとの協働が必要な課題でもあります。環境安全委員会では、これからもステークホルダーとのコミュニケーションを通して相互理解を深め、解決のための行動を継続したいと考えています。

製薬協では、1999年から毎年「環境報告書」を作成し、多くのステークホルダーの皆様に配布してきました。環境報告書2011には、上記で述べた製薬協の環境保全・安全衛生に関する活動の概要や成果を掲載しています。これらの取り組みに対して、皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただければ深甚に存じます。